

ファンド通信 |

One／ウェリントン・ コントラリアン・バリュー・ファンド

追加型投信／内外／株式

ポートフォリオ・マネジャーからのメッセージ

コントラリアン・バリュー戦略立ち上げの背景

今回はコントラリアン・バリュー戦略を立ち上げた背景についてご説明したいと思います。

私がこの戦略を立ち上げたのは2019年になりますが、当時は世界的に低金利の環境にあり、企業の借入増加や特定の業種において過剰な投資がみられるなど、マーケットが大きく変化していた時期でした。投資家は、無駄な投資を避けて、効率的に資本を使う企業に注目していたわけです。

私は直感的に資金の流れを先んじて見極めることが、大きなリターンの獲得につながると感じました。そして、このアイデアを活かすために資本サイクルの分析というプロセスを戦略の中に組み込んだのです。

生い立ちが与えた影響

では、今回はその資本サイクルについて焦点を当てたいと思います。改めて振り返ってみると、コントラリアン・バリュー戦略の立ち上げには、私の生い立ちが強く関係していたように感じます。

私の実家は畜産農家を経営しており、飼料価格の変動が事業経営に与える影響を肌で感じてきました。

例えば飼料となるトウモロコシや小麦は悪天候が続くと、農家からの供給が激減します。十分な飼料を卸すことができず事業をたたむ農家さえ現れます。しかしこのような状況になっても、畜産農家は牛や豚を育てるためには、飼料を購入しなければなりません。

そこには一定の需要が存在します。数少ない飼料を取り合うわけですから価格は高騰します。このような局面であっても、経営に体力のある大手農家であれば生き残ることができ、次に訪れる豊作の年の恩恵を享受することができるのです。こうした出来事が、資本サイクルへ着目するきっかけとなりました。

資本サイクル分析の深化

資本サイクルの分析が重要となるような出来事は、私がウェリントンで素材セクターの産業アナリストとしてのキャリアを積むなかでも幾度となく目にしてきました。それはリサーチ対象がトウモロコシや小麦から金や銅、原油に変わっても同じでした。次第に半導体やヘルス

ケアなど異なるセクターであっても同じような傾向があるのではないかと分析対象を拡大するようになりました。

資本サイクルをしっかりと分析し、厳しい環境でも生き残ることができる、そしてビジネスにおいて希少性を持っている企業に投資をしていく。それにより、下落リスクを抑制しつつアップサイドを捉える運用が可能になると確信するようになりました。

誰も注目しない企業へ投資する価値

多くの投資家は今株価が上昇している企業に注目してしまい、反対に業績があまりよくない業界や企業には関心を持たない傾向にあります。

しかし私は「誰もがまだ気が付いていない、上昇するきっかけを持つ企業に投資をすること」を重視しています。

つまり畜産農家の例で言い換えると、飼料はなくてはならないため、飼料価格が高騰して、経営が厳しい時こそ投資を行うのです。経営に体力のある大手農家であれば生き残ることができるので、次に訪れる豊作の年に大きな恩恵、つまりリターンを享受します。

One／ウェリントン・コントラリアン・バリュー・ファンドでは資本サイクルを活用した独自の運用プロセスにより、日本国内で販売されている多くの投資信託とは異なるポートフォリオの提供ができていると考えています。資産の分散という観点においても投資家のみなさまに新しい株式投資を提供できると信じています。

ウェリントン シニア・マネージング・ディレクター、 ポートフォリオ・マネジャー キース・ホワイト

- ・2007年ウェリントンに入社
- ・グローバル産業アナリストとして素材セクターの企業調査、分析を担当
- ・現在は、コントラリアン・バリュー戦略の株式ポートフォリオ・マネジャー、コントラリアン・バリューチームのメンバーとしてグローバル株式運用に従事



※上記の運用方針・考え等は当資料作成時点におけるものであり、投資環境の変化等により予告なく変更される場合があります。また、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

ファンドの投資リスク

当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資します。このため、株価の変動、為替相場の変動、十分な流動性の下での取引を行えない場合、有価証券等の発行者にかかる信用状況の変化、投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等により、組入れた有価証券等の価値が下落し、基準価額は下落することがあります。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

●株価変動リスク ●為替変動リスク ●流動性リスク ●信用リスク ●カントリーリスク

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

収益分配金に関しては、投資信託説明書(交付目論見書)の収益分配金に関する留意事項をご覧ください。

当ファンドには、大口の換金請求に関する制限、購入・換金申込不可日等購入又は換金に係る制限やお客さまの不利益となる事項があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の該当箇所をご覧ください。

お客さまにご負担いただく手数料等について(みずほ証券でお申込みの場合)

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入時	購入時手数料	購入金額に応じて、購入価額に以下の手数料率を乗じて得た額とします。
		1億円未満 …………… 3.30%(税抜3.0%)
		1億円以上3億円未満 …………… 1.65%(税抜1.5%)
		3億円以上 …………… 0.55%(税抜0.5%)
ご換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.1% の率を乗じて得た額とします。
保有期間中 (信託財産から間接的にご負担いただきます。)	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.793%(税抜1.63%) ※委託会社(アセットマネジメントOne株式会社)の信託報酬には、コントラリアン・バリュー・マザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー)に対する報酬(当ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.58%)が含まれます。
	その他の 費用・手数料	組入る有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。 ※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※上場投資信託(ETFおよびREIT)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託(ETFおよびREIT)の費用は表示していません。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

投資信託ご購入の注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

照会先

アセットマネジメントOne株式会社



コールセンター **0120-104-694**
 受付時間: 営業日の午前9時～午後5時



ホームページアドレス
<https://www.am-one.co.jp/>

お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

MIZUHO みずほ証券

商号等: みずほ証券株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号
 加入協会: 日本証券業協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会
 一般社団法人金融先物取引業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は



アセットマネジメントOne

商号等: アセットマネジメントOne株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
 加入協会: 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会